



Idein Inc.

2026年10月30日

報道関係 各位

Idein株式会社

Idein、防衛装備庁主催「防衛産業参入促進展 DIPEX2026」に出展 ～既存アセットを生かした防衛システムのSoftware-Defined化を提案～

エッジAI技術と、エッジデバイスの遠隔運用を支えるプラットフォーム「Actcast」（読み：アクトキャスト）を開発・運営するIdein株式会社（読み：イデイン、本社：東京都千代田区、代表取締役：中村 晃一）は、2026年11月12日（木）・13日（金）の2日間、ベルサール汐留で開催される防衛装備庁主催「防衛産業参入促進展 DIPEX2026」に出展します。

本展示会では、既存の装備やシステムを活用しながら、ソフトウェアによって機能を継続的に更新・拡張する「Software-Defined」な防衛システムに向けた開発アプローチを提案します。民生分野で実績のあるActcastを用いてPoC（概念実証）に速やかに着手し、動くシステムで機能要件を具体化したうえで、防衛用途の非機能要件を満たす本番システムの新規開発につなげることを目指します。

また、当社代表取締役CEOの中村晃一が、本展示会内で開催されるピッチイベントにも登壇予定です。



■出展背景

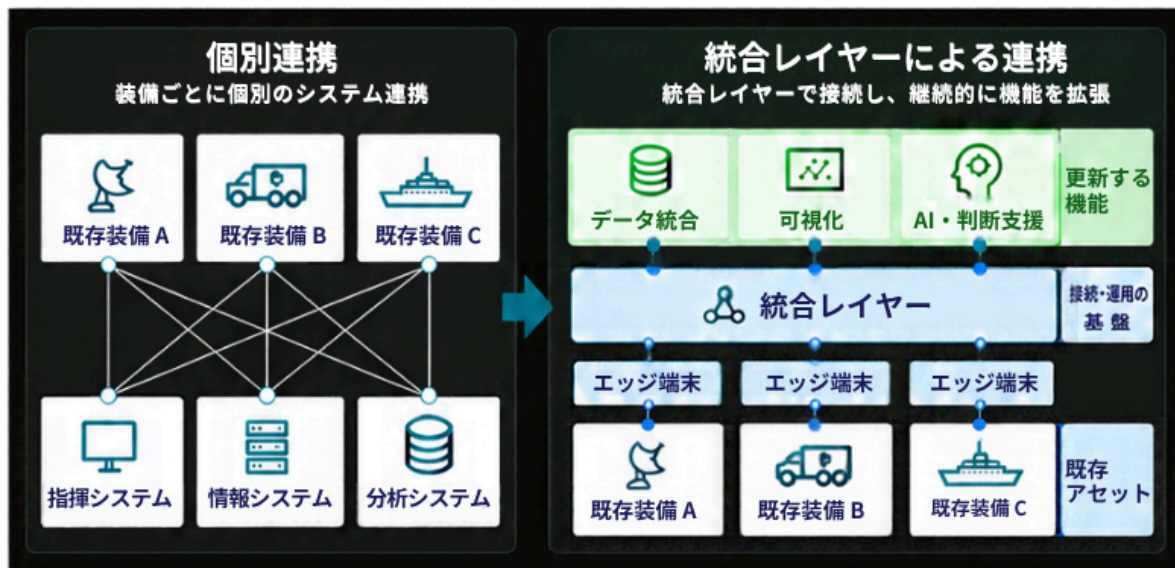
「防衛産業参入促進展 DIPEX2026」は、国内防衛産業のサプライチェーンの維持・強化と、優れた技術・製品を持つスタートアップや中小企業の新規参入促進を目的に、防衛装備庁が開催する展示会です。有望な企業と防衛関連企業とのマッチングの機会が提供されます。



Ideinは「物理世界のあらゆる情報をソフトウェアで扱えるようにする」をミッションに掲げ、エッジAI技術と、エッジデバイスの運用・管理プラットフォーム「Actcast」を開発・提供しています。Actcastは、これまで小売業や製造業などの民生分野で、多数の機器の遠隔管理やソフトウェア更新を支え、大規模な運用実績を積み重ねてきました。

防衛分野への提案では、各社の既存装備やシステムを生かし、それらをつなぐソフトウェア基盤を担うことを目指しています。装備ごとに個別の連携を構築するだけでなく、共通の統合レイヤーを介してデータを連携させ、このレイヤーに集約したデータを活用して、可視化やAIによる判断支援などの機能を追加・更新していく構想です。

この構想の実現に向けては、複雑な要件を机上ですべて定義することに時間を費やすよりも、早期に動くシステムを構築し、実機での検証を通じて要件を明らかにしていくアプローチが有効だと考えています。民生分野で実績のあるActcastを活用することで、検証環境をゼロから開発する負担を抑え、利用者の評価を取り入れながら、必要な機能や運用条件を具体化していきます。



既存アセットを活用した防衛システムのSoftware-Defined化（構想）*

*本図は防衛用途に向けた構想を示すもので、現行Actcastの対応範囲や導入実績を示すものではありません。

■Software-Defined化に向けた提案の3つのポイント

(1) 民生で培った遠隔運用・更新の技術を活用する

Actcastは、多数の拠点に配備した対応機器の稼働状況の把握や、AI・ソフトウェアの配信・更新を遠隔から行う機能を提供します。この技術・ノウハウを、防衛分野でも既存アセットを活用しながら、運用基盤の開発に生かすことが可能です。

(2) PoCに速やかに着手し、機能要件の検証から本番開発へつなげる



Idein Inc.

Actcastを利用することで、小規模なPoCに速やかに着手できます。対象業務や検証範囲を絞り、データ連携や可視化、AIによる判断支援など、Software-Definedな防衛システムに求められる機能要件を、動くシステムの上で検証・具体化する進め方を提案します。

なお、現行のActcastは民生向けであり、対応機器はRaspberry Piです。防衛用途の本番システムには、セキュリティ、信頼性、耐環境性などの非機能要件を満たすための新規開発が必要です。PoCで具体化した機能や得られた知見を、この本番開発に生かすことが可能です。

(3) 国内の開発体制と、FDEによる要件具体化の伴走支援

ActcastはIdeinが国内で開発・保守するプラットフォームです。当社のFDE（Forward Deployed Engineer）が、顧客ごとの用途や運用条件を踏まえてPoCの計画・実施を支援します。検証結果に基づく機能の改善に加え、防衛用途の本番開発に向けて必要となる非機能要件や技術課題を整理し、開発方針の具体化に伴走します。

■ 出展概要

展示会名：防衛産業参入促進展 DIPEX2026

会期：2026年11月12日（木）10:00～17:00、11月13日（金）10:00～16:00

会場：ベルサール汐留 B1ホール

主催：防衛装備庁

当社ブース：S-67

公式サイト：<https://dipex2026.com/>

※来場方法については、公式サイトの方来場者応募要項をご確認ください。

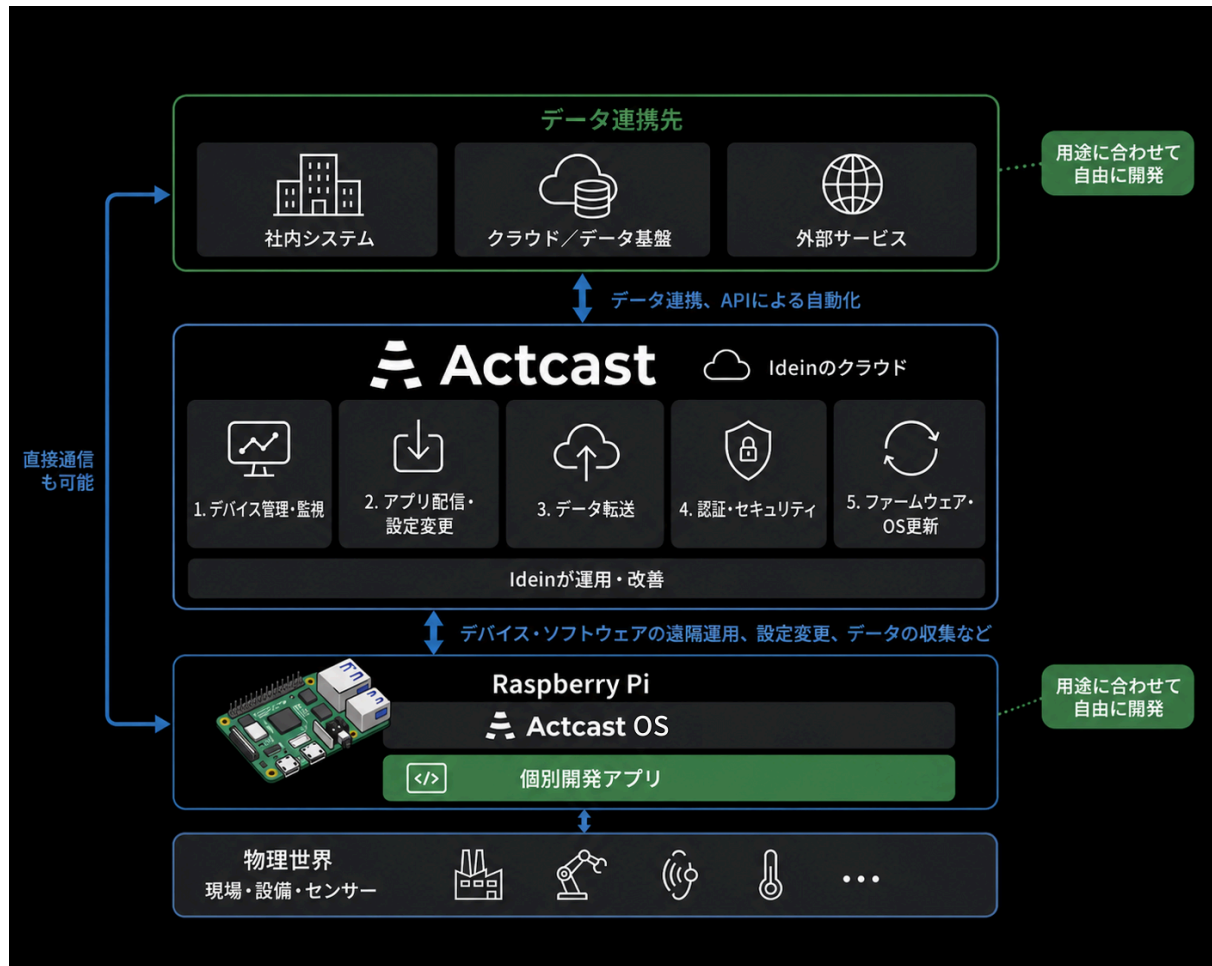
■ 「Actcast」について

Actcastは、エッジデバイスの大規模な遠隔運用を支えるプラットフォームです。多数のデバイスへのアプリケーション配信、監視、更新、データ連携を遠隔から一元的に行うための共通機能を提供します。

顧客は、取得するデータやその活用方法など、用途に応じた機能の開発に集中でき、現場ごとの運用負荷を抑えながら、継続的な改善と展開を進められます。



Idein Inc.



<「Actcast」のその他の特長>

- ・カメラ、マイク、温度計などを搭載したセンシングデバイスを使用して、リアル空間のさまざまな情報を収集・活用できます
- ・民生分野での累計登録台数は17,000台を超え、小売業・製造業などで本導入・大規模運用の実績があります
- ・170社を超える様々な業界のパートナー企業と強固なエコシステムを形成しています
- ・エッジAIは必要最低限の情報だけをクラウドへ送るため、プライバシー・機密情報に配慮しながら利用できます
- ・高度なAI解析を小型で安価な汎用デバイスで実行できるため、デバイスのコストを大幅に削減できます
- ・Idein独自の高速化技術により、AIモデルを軽量化することなくさまざまなAI解析ができます

■Idein株式会社 概要

Idein株式会社は、「物理世界のあらゆる情報をソフトウェアで扱えるようにする」をミッションに掲げる企業です。物理空間を知覚・制御するエッジAI技術と、エッジデバイスの大規模な遠隔運用を支えるプラットフォーム「Actcast」を開発・提供しています。課題の特定からシステムの実装・運用までを一貫して担い、現場のデータを業務や意思決定につなげま





Idein Inc.

す。日本国内では経済産業省 J-Startup選定をはじめ、日本経済新聞社 NEXTユニコーン企業にも選ばれています。英Arm社のAI Partnerや、米NVIDIA社のInception Program Partnerに選定されるなど、海外でも高く評価いただいています。

【設立日】 2015年4月7日

【代表者】 代表取締役 中村 晃一

【所在地】 東京都千代田区神田神保町1-28-1 mirio神保町 6階

【事業内容】 物理世界を扱うAI/IoTの開発・運用事業

コーポレートサイト： <https://www.idein.jp>

本件に関するお問い合わせ

Idein株式会社 広報室 高橋（メールアドレス：pr@idein.jp）